2025年度事業報告書

特定非営利活動法人リベルタ学舎

2025 年度　総括

Ⅰ．総括

　2025 年度は設立 2 年目となり、新たな事業にチャレンジをした年度となりました。

　特にサントリー”君は未知数”基金の採択を受け、ユースセンターの設立準備を進められたことはとても大きな一歩でした。

　行政からの委託事業については、神戸市から「校庭を活用した外遊び業務」を受託、兵庫県からは「中高生による地域課題チャレンジプロジェクト」を受託し、事業を遂行しました。どちらの事業も 2 年目となり、1 年目の評価を活かした事業展開ができました。

　1 期目に続いて、助成金の活用も進め、「KOBE 里山 SDGs 事業助成」、「地域貢献活動補助事業」、「住友ゴム CSR 基金」の助成を受け、活動を推進しました。

　協働事業としては、今年度も株式会社マック MAQ Inc.からの委託を受け「ふるさと兵庫“すごいすと”地域活性課事業」や山賊ワイルドラン実行委員会のメンバーとして、山賊ワイルドランを実施しました。すごいすと事業では新たな仕様となる若者インターンシップに取り組み、すごいすとのもとで若者がインターンシップを通して次世代のリーダーになるきっかけづくりを提供しました。山賊ワイルドランでは、引き続き神戸学院大学菊川ゼミ、やまもりサーキットの大谷氏やみどりカフェの内田氏と協働して実施することができました。

　若者を中心に「誰もが、やりたいことが実現できる社会」を目指した活動は、一方で「やりたいことがなければ駄目なのか？」という問いを自らに突きつける経験もする 1 年でした。このように常に自分たちの考え方やあり様を問い直し、次の一歩を踏み出していければと思います。

Ⅱ財務状況・事業規模

　2 期目は当初予算からマイナス予算となり、厳しい歩みになる見通しでした。結果的に赤字決算になったことは反省すべきところですし、今後に活かさなければならないところです。今後はユースセンターを中心に、自主事業の拡大や協賛していただける事業内容を構築し、個人や団体からの寄付や協賛を受け、持続可能性を高める事業企画・運営を行っていかなければなりません。

2025 年度　各事業報告

＜受託事業＞

1.中高生による地域課題解決プロジェクト

【委託者】兵庫県阪神南県民センター

【事業概要】

本事業では、阪神南地域（尼崎市、西宮市、芦屋市）に住んでいる又は学校に通っている中高生自らが、身近な地域課題を発見し、具体的な政策を立案、プレゼンテーションを行うことにより、自分たちの住んでいる地域への関心を高めることを目的とし、政策立案チャレンジを実施しました。

まずは、昨年度の事業に参加した中高生を中心に、今年度の参加者を募ることを目的とした「「これやりたい！」で仲間とつながるワークショップ」を複数回開催しました。ワークショップではたこ焼きを作るという共同作業を通じてコミュニケーションを図り、参加者の関心事について共有する時間を作り、同時に本プログラムの PR を行いました。

ワークショップを通じて本プログラムへ応募があった参加者を対象に、キックオフミーティングを開催しました。キックオフミーティングでは、高校生時の活動を経て学生起業をするに至った小竹氏をゲストスピーカーとして招き、自分の課題意識を出発点としてどのように他者を巻き込みながら活動に繋げていくのかについて学びました。その後、各参加者の関心のあるテーマを出し合うワークショップを通じて、「食と国際」「ゲームで地域活性化」「怠惰な人も受け入れる居場所」という 3 つのテーマとチームが生成されました。

その後、各チームで企画会議を重ね実践を行いました。「怠惰な人も受け入れる居場所」チームは「怠惰カフェ」と題した対話イベントの開催、「ゲームで地域活性化」チームはマインクラフトを使って地元建造物の再現、「食と国際」チームは在日外国人と料理を通じて交流するイベントの実施を行いました。

中間報告では、政策提言コンサルティングを専門とする小木曽氏を招き、そもそも政策提言とは何かということに対する解説や、最終報告に向けて各チームの発表内容にフィードバックをいただきました。特に、誰（どの行政のどの部署）に対して提言を行うのかという点を明確にすることや、これまで行政として取り組んできた事例を AI を活用しながら徹底的に調査することなどがアドバイスされました。

1 月 31 日に開催された阪神地域未来づくりシンポジウムにて、全 3 チームが発表の機会をいただき、ゲストの有識者の皆さんからフィードバックを頂きました。

【プロジェクト実施内容】

・実行委員会キックオフミーティング
　日時：4 月 12 日（土）11〜13 時
　会場：リベルタ学舎オフィス　　参加者：中高生 5 名

・PR イベント（「「これやりたい！」で仲間とつながるワークショップ」）
　日時：5 月 3 日（土）10〜15 時
　会場：リベルタ学舎オフィス　　参加者：中高生 4 名
・PR イベント（「「これやりたい！」で仲間とつながるワークショップ」）
　日時：5 月 11 日（日）10〜15 時
　会場：リベルタ学舎オフィス　　参加者：中高生 5 名

・PR イベント（「「これやりたい！」で仲間とつながるワークショップ」）
日時：6 月 15 日（日）11〜15 時
会場：武庫川女子大学　　参加者：中高生 10 名

・キックオフミーティング
日時：6 月 29 日（日）14 時〜16 時
会場：打出教育文化センター　　参加者：中高生 8 名
ゲスト：小竹悠暉氏（株式会社 Winttle）

・怠惰カフェ
日時：8 月 17 日（日）13 時〜16 時
会場：打出教育文化センター　　参加者：3 名
ゲスト：永茂いぶき氏（甲南大学）

・中間報告会
日時：12 月 14 日（日）13 時〜16 時
会場：園田学園大学　　参加者：中高生 9 名
ゲスト：小木曽稔氏（株式会社政策渉外ドゥタンク・クロスボーダー）

・Cooking Around the World
日時：1 月 11 日（日）11 時〜15 時
会場：立花南生涯学習プラザ　　参加者：27 名

・最終報告会（阪神地域未来づくりシンポジウム）
日時：2026 年 1 月 31 日（土）13 時 30 分〜16 時 30 分
会場：伊丹商工プラザ　　参加者：中高生 9 名

3.校庭を活用した外遊び業務
【委託者】神戸市中央区役所地域協働課

【事業概要】
神戸市では、2024 年度に続き本プロジェクトを公募・実施しました。中央区内の子ども達に小学校の校庭を活用した外遊び環境を提供することで、心身ともに健康な子どもの成長を促進するとともに、校庭を活用した外遊び環境の継続的な創出に向けた検討を進めるための実証となりました。
リベルタ学舎は中央小学校となぎさ小学校の 2 校での業務を受託し、昨年度に続き C.A.P（芸術と計画会議）と協働して、独創的な外遊びを企画、実施しました。

【児童参加数】
＜なぎさ小学校＞
1 月 13 日 12 名、1 月 20 日 33 名、1 月 27 日 37 名、2 月 3 日 40 名、2 月 10 日 49 名
計 171 名

＜中央小学校＞
2 月 17 日 37 名、2 月 24 日 52 名、2 月 26 日 27 名、3 月 3 日 60 名、3 月 10 日 63 名
計 239 名

【プロジェクト実施内容】
昨年度に引き続き、C.A.P.アーティストとの協働により総合遊具と工業用ラップで巻くという非日常的な遊びが展開できたことは当該コーナーで遊ぶ児童の人数や子どもたち自らのアイデアによる発展性からも良い評価ができると考えます。ただし、総合遊具の形状が学校によって異なることによって、安全確保を柔軟にしなければいけないことは課題として捉えられました。校庭での焚き火については両校とも子どもたちの関心を惹きましたが、中央小学校では近隣住宅への配慮から小さな火に制限せざるを得ないということもありました。ここでは二次燃焼コンロを活用することで煙などを抑制しつつ火起こし体験を継続することができました。木工コーナーでは子どもたちが主体的にイメージしたものを工作できましたが、持ち帰りの際に大きさや釘類の出っ張りなどが課題となりました。しかしながら、それらの危険を次の回に生かして工夫しながら遊んでいたことは子ども達にとっての危機管理能力の向上につながったと感じらました。
学校による環境の違いもありましたが、子どもたち自身が自由に工夫しながら遊ぶ環境が提供できたことにより、日常では体験できない放課後の遊びと学びになったと思われます。

＜自主事業＞

1.コメーン 88
リベルタ学舎の農業チームであるコメーン 88 として、今年度もヒノヒカリとプリンセスサリーの 2 種の米づくりを行いました。CSA を支える農業丁稚としてリベルタ学舎のメンバーだけでなく、3 名の丁稚が加わりました。結果としてヒノヒカリは 521kg、プリンセスサリーは 60kg の収穫となりました。昨年度発足したカレープロジェクトから生まれた山賊カレーはレトルトや冷凍のパッケージとなり、寄付サポーターへの返礼品となるだけでなく、ぷかぷかコミューンでの販売にも繋がりました。加えて、大福咖喱は複数場所で出店し、プリンセスサリーを活用・販売しています。
助成金を活用した新たな取組としては、伐採した竹から竹チップを作り、来年度の米づくりに活用する肥料としたり、地球ラボのコンポスト基材を活用し果樹の育成などに挑戦したりしました。

＜協働事業＞

1.ふるさと兵庫“すごいすと”情報発信事業

【委託者】株式会社マック MAQ inc.

【事業概要】
　本プロジェクトでは、まちづくりや子育て支援、観光振興など、地域づくり活動を通して兵庫を元気にしている人物・団体など、多彩な兵庫の魅力を紹介することを通じて、ふるさとへの誇りや愛着の醸成につなげ、“参画と協働”の輪を広げるインターネット情報誌「ふるさと兵庫“すごいすと”」を制作する事業に取り組みました。

リベルタ学舎としては対象となるすごいすとへの取材を通してWEBへ記事を掲載することに加え、音声メディアとしてポッドキャストの制作にもチャレンジしました。また、タブロイドを制作、発行しました。
　また今年度初めての取り組みとして「すごいすと」のもとに、学生がインターンシップとして活動し、地域の課題解決に結びつけている、“スゴいひと”のもとで仕事×地域活動を体験する「インターンシップ」を実施。受け入れ先として16団体の協力を得て、半年間学生を受け入れていただいた。

【プロジェクト実施内容】
・新規取材（すごいすと６名、CO-COすごい４団体）
　再取材（すごいすと５名、CO-COすごい１団体）

・すごいすと同士の交流会
　日時：2026年２月15日（土）13:30〜16:00
　会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸

・すごいすとタブロイド
　Webサイト「すごいすと」の掲載者より抜粋してタブロイド版を制作（3,000部）。

・インターンシップ
　2025年７月〜2026年１月末まで
　受け入れ先16団体、参加学生19名

2.山賊の森づくりプロジェクト

【事業概要】
丹波篠山市の西紀エリアを中心に、「地域の多様な人々との交流」「山賊の森づくりをきっかけに、再来訪するきっかけをつくる」ことを目的とし、丹波篠山キャンプ場やまもりサーキットとみどりカフェとともに共同企業体を組成して、取り組みました。

今年度で４年目の事業となり、参加者の前年度よりも1.5倍に増え、兵庫県外からのエントリーも増えており、リピートされる方も増えてきています。「従来と異なる切り口での接点創出」により、イベントを軸とした多様な人々との交流が実現し、通年の里山・竹林整備に関わる仕組みを作ることができてきています。

10月４日（土）竹林整備
場所：丹波篠山キャンプ場やまもりサーキット
翌日開催するワイルドランのスタート位置となる森の一角をランコースとして走れるよう整備。

10月５日（日）山賊ワイルドラン
場所：丹波篠山キャンプ場やまもりサーキット〜黒豆の館
４人１チームでエントリーしたランナー（予定100名）が西紀北〜垣屋〜黒豆の館の間、およそ26キロを走った。途中、山林伐採体験、薪割り、農作物の収穫など、地域にある「宝」を探しながらアクティビティをクリアし、ゴールを目指すファンランを実施。

12 月 20 日（日）竹林整備
山賊ワイルドランでランナーが走った走行距離 10 キロにつき 1 本竹を伐採し、「山賊の森」と名付けたエリアをランニングコースとして整備した。
場所：丹波篠山キャンプ場やまもりサーキット

＜補助金・助成金事業＞

1.サントリー“君は未知数”基金　ユースセンター事業

【事業概要】
サントリー“君は未知数”基金の採択を受け、常設のユースセンター開設に向けて準備を進める一年でした。実施に向けて、特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティーの協力を受け、コベカツが始まろうとしている状況にある中学生へのヒアリング（各校 10 名程度）や web アンケートを設計、実施し、その声を反映させながらユースセンターの開設準備を進めました。

【ヒアリング実施概要】
11/27 御影中学校（東灘区）、11/27・28 神戸生田中学校（中央区）、
12/5 上野中学校（灘区）、12/17 長田中学校（長田区）、12/17 太田中学校（須磨区）、
1/19 湊翔楠中学校（中央区）、2/17 稗田小学校（灘区）

【web アンケート実施概要】
上野中学校（灘区）、太田中学校（須磨区）、神戸生田中学校（中央区）、
八多学園（北区）、御影中学校（東灘区）、湊川中学校（兵庫区）、
湊翔楠中学校（中央区）

回答数 1,213 件

【ユースセンター3:30（さんさんまる）の開所】
- DIT（Do It Together）を 7 回実施（3/1 、3/6 、3/8 、3/12、 3/13 、3/16 、3/27 ）
- 稗田小学校 6 年生や科学技術高校の先生や生徒、大人のボランティアなど多数参加。
- 3/28 の開所式にはサントリーホールディングスや“君は未知数”基金事務局、神戸市教育委員会、神戸市子ども家庭局青少年課、灘区地域協働課、灘区社会福祉協議会、地域の商店主など 20 名が参加。

2.KOBE 里山 SDGs 活動支援補助金

【事業者】一般財団法人 神戸農政公社
本事業では、①放置竹林の竹チップを活用したコンポストセットの販売に向けた開発プロジェクト、②整備した休耕田で栽培した食材を使ったカレー商品の開発・販売プロジェクトを実施することができた。①については、現在 4 つの家庭とコミュニティ施設が協力し、コンポストによる堆肥作りと堆肥活用の実践に取り組んでいただいている状況である。②については実際に地域のマルシェやレンタルキッチンなどでの出店実績を積み上げている。以上を通じて、放置竹林及び休耕田の利活用方法としての一定のモデルを示すことができた。

3.地域貢献活動補助事業
【事業者】神戸市地域協働局地域活性課
申請時の目標①：学生を主体とする企画が２つ以上実現されている状態
各チーム１つ以上、合計３つ以上の企画が実現された。企画の内容も農業を取り巻く課題の解決を目指す物となっており、当初の目標は達成できたと言える。
申請時の目標：②学生が農業により簡単にアクセスできる状態
年間を通した受け入れが目標であったが、農作業が天候や季節に左右されることもあり、コンスタントな活動には至らなかった。また農家側も学生側も活動する余裕がある時期とそうでない時期があったため時期を考慮したプログラムの設計やコーディネートの必要性を感じた。
申請時の目標：③本事業を持続する方法が確立されている状態
今年度中に上げられた収益は本事業全体の継続可能性の観点からは十分ではないと言えるものの、一定の売上を得られたのは事実である。また、農業と若者をつなぐ事業は社会的にも関心の高いテーマであることもあり、他助成金の獲得も実現した。

4.住友ゴム CSR 基金
【事業者】住友ゴム工業株式会社
・3 組（2 つの農家+JA）に受け入れいただいた（そのうち JA は年度途中で活動が途切れる）
・定期的（月に 2 回以上のペース）にいずれかの農家での活動が実施され「学生と農業の距離」が近づいた
・上記日常的な活動に加え、前年度から継続された JA との「カレー商品開発&販売プロジェクト」、小池農園での「土から作る米づくりと仲間集め実践プロジェクト」「放置竹林整備&活用プロジェクト」「プリンセスサリーに合うカレー開発プロジェクト」、鶴田農園での「トライやる・ウィーク受け入れプロジェクト」「KOBE 学生農業サミット」という具体的なプロジェクトが生まれた。
・「プリンセスサリーに合うカレー開発プロジェクト」では 17,200 円が売上として計上された。
・活動情報やボランティア募集情報を共有する Slack チャンネルが開設され、登録者数が 30 名を超えた。

＜トライやるウィークの受入＞
1.雲雀丘中学校
【プロジェクト実施内容】
・2025 年 6 月 9～13 日の 5 日間で神戸市立雲雀丘中学校より、1 名の中学 2 年生を受け入れ鶴田農園での活動を行いました。今回は学校の推薦ではなく生徒本人が web サイトで農業としてトライやるウィークを受け入れている団体を探し、リベルタ学舎にたどり着いたというケースでした。本人の意欲が高く、農作業も楽しんでいたことに加え、鶴田さんとの語らいの中で人生について考える機会にもなったことはとても大きな影響を与えたと確信しました。